

雜 錄

●金嶺鎮の鐵鑛床

青 地 乙 治

金嶺鎮鐵鑛床は山東鐵道管理の唯一の鐵山なり金嶺鎮、湖田、張店の三驛を含める鐵路の北方一里乃至二里の距離に於て鐵山、團山、玉皇山、四寶山等が北に向つてなせる馬蹄形の山脈中に連亘せり。

本鑛山は大正五年四月既に當調査所長並びに所員小林胖生氏によりて詳細に調査報告せられたるものにして閃綠岩と石灰岩（支那層上部）との接觸に基づく接觸交代鑛床に屬し東北方は鳳凰山、南方は上湖田附近に露出せる砂岩、頁岩、硅質石灰岩等よりなれる所謂博山夾炭層及び支那層上部の石灰岩と假像的斷層を以て境し鐵露頭は延長約一萬五千米突の間に點々存在せりと雖も該調査當時に於ける探鑛程度に於ては確實に稼行に堪へ得るものと考へられたるは鐵山區域なり小職等今回視察するに爾來今日に至るまで此の區域を除きては新たに探鑛採掘の進められたる處なきを以て此處には鐵山區域をのみ限りて其後の探鑛採掘の進捗に伴ひ得たる現況の一斑を記述せんと欲す。

鑛體 鑛體の形は所謂接觸交代鑛床として最も普通なる不規則なるレンズ狀をなせるものにして上昇せる熱鑛泉が接觸部に於て比較的交代し易き石灰岩の上部を選び液中に含まれたる銀分を交代填充したるものなり閃綠岩との接觸部に多て

は多量の輝石類を伴ひ鐵牛附近に於ては少量の風化せる柘榴石様の鑛物を伴ふ。

露頭に近き部分は既に調査せられたるが如く露頭部は北端黃金莊村落の西方に起り丘陵の緩斜面を東南に亘り所謂「鐵牛」を過ぎて鐵山の東麓に至り幅三米突乃至三十米突、延長約一千七百餘米突に及ぶも此區域に亘りて溝狀凹地をなせる舊坑跡あり至る處表土によりて埋沒せられ鐵露頭は點々其間に散在せり。

一、鐵牛の北東露天掘第一は⁽¹⁾約九十三米突の高距即ち三番坑道地並より約二十米突の高さの地點にして目下地表下二十米突の底部まで摺鉢形に掘り下げられ此の部に於ける赤鐵鑛を採掘し以て三番坑道内へ運搬せり。

二、露天掘第二⁽²⁾は鐵牛の西端約二百七十米突の地點にして三番坑道地並より約四十米突の高さなり地表より約十米突底部の表土中に埋沒せられたるが如き觀をなせる赤鐵鑛を採掘せり。

三、露天掘第三⁽³⁾は第二の區域より更に約百七十米突西南に位し三番坑道より約五十米突の高さの地點にして此の地域にありては地表より約十八米突底部にて作業し主として赤鐵鑛を採掘せり。

四、露天掘第四⁽⁴⁾は第三露天掘の箇所より更に西南へ約百八十米突を隔て、三番坑道地並より約七十米突の高さなり、

此所にては地表より約十八米突底部の鑛石を採掘せり。前記の内鐵牛より第一露天掘に至る間は三番坑道主要部の上部に位し地表より十五米突乃至二十米突は既に鑛石を採掘し盡し坑道は填充せられたる區域なり。

露天掘第三第四は二番坑道直下に位し兩露天掘地點間の區域は些少の掘り残しを除き殆んど鑛石の全部は地下十四乃至十五米突位まで掘り盡くされたものと見て差支へなかるべし（坑道内大部分は填充せられたり）。

更に鐵牛より西南の約百米突の間は第三番坑道内にて鑛床一時極めて薄くなり遂に斷絶し閃綠岩は突出して鑛體を被ひ西北へ傾斜し一見該火成岩が上盤をなせる觀あり。

露天掘第二第三地點間の區域も亦同様坑内にては鑛體は斷絶し火成岩は直接石灰岩に相接せり。

第二露天掘より東北約百五十米突乃至二百米突の間は多少露頭部近く鑛石の殘留せるものありとするも甚だ疑はしく此部も亦露頭部の地表下約十米突内外は已に掘り盡されたるものと見て差支へなかるべし。

要するに目下殘留せる鑛體は鐵牛より東北にありては三番坑道（疏水坑道）地並より約十五米突の高さを有し西南にありては約六十米突乃至三十米突の高さを有するものと見ることを得べし。

坑道地並は既に記述せるが如く疏水坑道を三番坑道と稱し之れより上部約三十米突の高さに二番坑道あり更に三十米突上方に一番坑道を設く皆閃綠岩と石灰岩との接觸部に胚胎せる鑛體に沿ひて開鑿せられたるものにして略ぼ四十米突乃至五十米突毎に左右に鑛入れを作り以て下盤なる閃綠岩、上盤なる石灰岩に達せり。

今三番坑道中のI、II、IV、V、VIII、X、(A)、(B)、(C)二番坑道内の(D)、(E)並びに一番坑道内各所に於て觀察せし所を總合せば鑛床は各坑道地並に於て別紙の如き形體を有し其幅は到る處により

相違し略ぼA、B、及C、D、(C、D、は同一の鑛體)なる三箇のレンズ狀をなせることを想像せしむ。

石灰岩は概して四十二度内外東南へ傾斜せるも之れと鑛體との接觸部は多くの場合石灰岩の傾斜より更に急なり。

三番坑道のVI、Xにては石灰岩と鑛體との境界を起點として東南へ四十二度の傾斜を有する斜坑を石灰岩の傾斜に沿ひて穿ち約四十米突該岩石中を掘進し毫も鑛體に達せざるを見ても明かなり即ち三番坑道以下の鑛況を探查するには更に鑛體に向ひて新たなる鑛入れを作らざるべからず、三番坡道内にては概して石灰岩と鑛體との接觸面は凡そ四十五度乃至五十度の傾斜をなせり。

鑛體	延長	高	さ	各坑道地並に於ける鑛體見掛の面積
A	五〇〇米突	三番坑道並より	一五米突	一四、五七三平方米突
B	二〇〇	同 上	三〇	六、二四〇
C	二〇〇	同 上	三〇	三、九〇二
D	二〇〇	二番坑道より	三〇	五、〇〇〇

鑛石 露頭部に近き部分殊に石灰岩と接觸せる部分にありては比較的赤鐵鑛多く露天掘第二直下にありては地表より約四十尺底部の三番坑道内にも存在せり、磁鐵鑛は赤鐵鑛に比し著しく其分布廣く閃綠岩と接する部分は屢々輝石屬の鑛物と密に混同し從つて品位劣れるのみならず之等の夾雜物は風化によりて膨脹し爲めに鑛石は粉碎され易く既に採掘せられ貯鑛せられたるものを見るも屢々此の現象を目撃せり。

小量の黃鐵鑛は坑道内到處（殊に鐵牛の西南）の鐵鑛中に存在せるも就中三番坑道IVに於て黃鐵鑛の小脈網狀に磁鐵鑛を貫通し其の量約二〇〇%以上に達する處あり然して鑛石

は良好なり今八幡製鐵所に於て分析せし結果を見るに次の如し。

鐵石採集日付		鐵石採集場所		鐵	硅酸	硫黃	磷	銅	滿俺
大正八年十二月二日	第一坑	六三・三五	三七・四	〇・五三	〇・〇九	〇・〇六			
	第二坑	六三・七六	五三・六	〇・三三	〇・〇五				
	第三坑	六三・二〇	五三・九	〇・四四	〇・二八	〇・四九	〇・三三		
	同	六三・八〇	一・六	〇・七	〇・六	〇・〇三	〇・〇五		
八年九月	粉	六三・四	一・三三	〇・〇八	〇・〇九	—	—		
九年五月廿九日	第三坑北	六三・七一	五三・五	〇・五五	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四		
	第三坑北右	六三・六	二・三〇	〇・〇三	〇・〇〇	〇・八五	—		
	鐵牛	七三・三	四四・一	〇・五五	〇・三三	〇・七	〇・六		
	露頭	六三・七一	四七・七	〇・〇七	〇・〇六	〇・三〇	〇・三〇		
九年十月	第三坑南	五三・老	二三・八	〇・〇八	〇・〇三	〇・三	〇・三		
	第三坑南右	六三・三	二・四	〇・〇四	〇・七三	〇・五	〇・四		
	露頭	六三・四	五三・八	〇・七三	〇・二	〇・四	—		
	同								

鑛量 (省略)

出鑛量及び賣鑛噸數 大正八年より九年に渡る出鑛量及び八幡製鐵所へ賣鑛せし噸數次の如し。

出鑛量 自大正八年四月至同九年十月

二十萬四千九百八十七噸二

内譯

大正八年		大正九年	
第一坑道	一三、〇七六・五	第一坑道	七一・〇
第二坑道	一一、七一六・二	第二坑道	二五四・九
第三坑道	四二、八三〇・三	第三坑道	六一、一四一・六
露頭部	四〇、三八一・九	露頭部	三一、一四二・九
無札鑛	二五〇・七	無札鑛	二、五一・二
計	一〇九、二二五・六	計	九五、七六一・六

賣鑛噸數 自大正八年十一月(八年十一月以前)至大正九年十月(には荷渡なし)

十六萬九千八百六十噸一九

内譯

赤鐵鑛		磁鐵鑛	
大正八年十一月	一五、六〇一・四四	一二、七三八・七九	
同十二月	〇	一、六四七・八二	
同九年一月	一、七四八・〇五	〇	
同二月	五、〇八七・一三	一、九一三・〇〇	
同三月	一三、四六四・四九	一五、二六五・八六	
計	三五、九〇一・一一	三一、五六五・四七	
大正九年四月	六、二四七・六八	四、六七一・一九	
同五月	一五、三五八・〇三	二二、六九〇・一三	
同六月	〇	〇	
同七月	八、九三九・三七	六、七九九・七九	
同八月	一〇、一三一・五七	一〇、〇〇五・八五	
同九月	五、四三〇・〇〇	六、六三〇・〇〇	
同十月	四、〇八〇・〇〇	一、四一〇・〇〇	
計	五〇、一八六・六五	五二、二〇六・九六	
果	八六、〇八七・七六	八三、七七二・七六	

採掘費及運搬費

鐵山に於ける採掘費噸當

埠頭までの運搬費

内譯 積込費

金嶺鎮驛より埠頭までの運賃

山元より金嶺鎮驛までの運賃

(支那鑛業時報第五十五號)

●製鐵合同に就て

某當局者談

財界反動以來悲況の底に沈淪せる本邦製鐵事業の救済策と

して該事業合同をなすべしとの議は先般來財界各方面に唱道せらるゝ所で就中當業者の間には八幡製鐵所を中心として大合同をなし半官半民の事業となすべしとの要望がある、蓋し我國の製鐵事業は官營の八幡製鐵所其他一二會社を除いては概ね戰時事業界の好況に乘じ外國品の輸入杜絶に因る鐵價の暴騰に促されて一時に發展したもので企業計畫經營方針其他の點に於て平時の採算を考慮外に置いたものが多いから平和克復と共に外品の輸入が自由となれば之と競争し難きに至るは當然の事であつて従つて之が對策として曩に若干の關稅引上又は製鐵獎勵法等が設けられたのであるが其後事業界益々不振の爲めに是等既定の對策のみでは未だ十分には斯業救済の目的を達し能はぬが故に新なる對策として合同論が唱道せられるやうになつたのである。然らば即ち民間製鐵業者が要望する八幡製鐵所を中心とする大合同が實現したならば果して完全に救済の目的を達する事が出来るかと云へば之は今後に於ける財界の如何にも因るもので輕々しく斷言する事は出来ないが由來我國の製鐵事業は原鑛石の供給少く炭價及勞銀が不廉であつて生産條件が歐米先進國に比し遙に不利益であるから假令合同計畫が實現したからとて直に製鐵救済の目的を達し得るや否や頗る疑問とせねばならぬ現に八幡製鐵所の如きは民間の各製鐵會社に比し生産條件が最も有利であるに拘らず拂下品價が低位の爲め事業成績は漸く缺損の状態となつて來て居るのだから之に對し、より不成績な民間會社を合同したとて役所式の經營法が營利式を加味する所に幾分經費の節約がある位なもので著しく生産條件を良好になし得る道理がない従つて八幡製鐵所側から云へば大合同は事業經

營上何等の利益はないのみならず事業界が現在の如く不振であるといふ缺損率をより多くせねばならぬやうな結果にならぬとも限らぬ、けれども製鐵事業は産業上の基礎工業であるのみならず國防上の見地からも其の根本方針を確立せねばならぬ製鐵の根本方針と云へば畢竟或る程度の犠牲を拂つても銑鋼の自給自足を圖るか或は天賦産業論に基いて安價なる外國品の供給に依りて國內の需要に充つるの二者に歸するが現在の國際關係から云へば海軍協定などが出來ても所詮は前者を選ばねばなるまいから製鐵の根本方針を定むるの前提として先づ以て戰時中不秩序に計畫された製鐵事業を整理する意味を以て該事業の大合同を實行し而して後製鐵の自給自足に必要な國家的對策を定むるのも一策であらう。と

政府の諒解

我製鐵業は沈衰の極に陥つてゐるからこれが救済の一策として製鐵所の合同が計畫され民間製鐵業者の首腦たる三菱(坂本)田中鑛山(香村)東洋製鐵(西野)日本製鋼(磯村)日本鋼管(白石)の諸氏が屢々會合して協議を重ねてゐたが問題が頗る重大にして且つその間には複雑な事情が介在してゐるから合同に關する具體案は容易に纏らなかつたけれども結局製鐵業者間で合同案を作成し政府の諒解を得ることにしやうといふところまで話を進捗し之に歐米の製鐵界を視察して歸朝した團琢磨氏中島久萬吉男等の斡旋もあつたから合同熱は愈々濃厚となり一方政府當局側も暗々裡に之が調査を進め八幡製鐵所の意見をも徴してゐた次第であつた然るに政變勃發して高橋内閣が没落したので本問題も頓挫の形となつたが最近聞くところによれば加藤新首相は軍事政策の必要から現下の

鐵業沈衰には同情と諒解とを持つてゐるから前記製鐵業者は同運動を繼續しその貫徹を期する上に極めて有利だから一層の努力をつゞける由である今右合同に對する一般製鐵業者の主なる人々によつて作られた合同私案を聞くに

(一) 合同すべき會社の範圍は理想としては全國的でなければならぬが實際上各地に散在する小製鐵會社をまで包含するわけには行かないから先づ年産額三萬五千噸以上程度の大會社に止むべきこと。

(二) 我製鐵業の發展を期するためには鞍山(滿鐵)本溪湖(大倉)の二大製鐵所をも合同加入せしむるのが有利だけれどもこれ實際上から見ても國際關係の地位にあつて容易に合同されない事情が伴ふからこれらは暫く切離すこと。

(三) 従つて最も容易であると思はれる内地の民間大製鐵所と八幡製鐵所との合同を速かに成就すること。

にあるらしい而して民間製鐵業者の間には誠心誠意之が達成に奔走してゐるものがあるから此の際政府當局が眞面目に調査を續けるときは或は實現可能を見るかもしれないが、何分問題が至難にして俄かにこれを決定せられ得べきものでないから事情が熟して來ても急に斷行を見ることはあるまいと觀測される。

製鐵合同の前途

目下我製鐵界の重大懸案となつて居る民間製鐵會社の大合同並に八幡製鐵所との合併問題は一時當業者間の注意を惹き各有力者中熱心に之が達成を説くものがあつたのみでなく前内閣當局者も内々之に賛成の意を洩らした程で最近餘程其議が熟して居たが前述の如く政變に遭遇した爲め茲に一頓挫の已むなきに至つた。所が其後加藤内閣の成立するに及び新首相は軍事政策上の必要より見ても現在の如く斯業の沈衰を極めて居るのは將來の國防上にも尠からぬ大關係があるとして非

常に理解を有して居ると云ふので主唱者も餘程之に望みを囑するに至り昨今其合同熱が再燃の形となつて來たが何分斯る大問題は一朝一夕に協定し得べき性質のものでなく、且つ各社夫々の立場から見ても合同條件及び其範圍工場の實際問題等の利害問題に就て愈々實現を期するとしても出來得る限り慎重の調査研究を要すると云ふので容易に具體的方法を協議する迄に問題の進捗を圖り難い事情にある様である、併し本問題は他の凡らゆる事業會社の經營難に對する當業者救済策と云ふが如き單純な問題でなく將來に於ける國策上の見地よりしても此の際其基礎を十分鞏固にして置く必要があるのて製鐵關係者以外の有識者に於ても相當其實現の可能性を認め居る様なれば今後新内閣の政策方針が愈々確實になつて來たならば當局の意嚮如何により漸次其機が熟して來るであらうと看做されて居る。元來本問題の提案を最も早くより試みたのは政友會代議士今泉嘉一郎博士等で同氏は永く八幡製鐵所の重要地位を占めて居つただけに同製鐵所の合同實現に就ても十分の可能性を確信して居る模様で之に團琢磨氏並に中島久萬吉、郷誠之助兩男其他三菱、田中鑛山、日本鋼管、日本製鋼東洋製鐵等の各主腦者何れも其自衛上賛意を表したが爲め從來屢々意見の交換が行はれた次第である、而して合同の方法に就ては各自種々の意見を有して居るが、要するに八幡製鐵所との合同に依る半官半民の大會社設置を目的とする事に就ては何人も意見が一致して居る様である、而して其合同の可能性を最も多く有して居るのは目下の處鞍山站(滿鐵)東洋製鐵、北海製鐵(三菱)本溪湖(大倉)兼二浦(三菱)等の大製鐵所である其内鞍山站及び本溪湖は國際關係があるので果して

俄に實現が出来るかは疑問であるから先づ最も有望なのは其他の三製鐵所であつて就中東洋製鐵の如きは最近八幡製鐵所より其地所内に岩壁其他の新設備を施した程で關係が頗る密接となつて居るので實現も大して困難でないと言はれて居る唯爾餘の小製鐵會社まで此の合同に入るべきものか何うかは甚だ疑問とされて居る由である。

●本邦の砂鐵鑛

井上克己氏談

歐洲戰亂の際我國の製鐵業者は砂鐵鑛を原料として製鐵事業を試みたが何れも皆失敗に歸したのであつた、その主なる原因は砂鐵鑛は言ふ迄もなく粉末鑛石であるから是を直ちに製鐵高爐に裝入する時には製鍊作業をして著しく困難ならしむる事と、モ一つは砂鐵鑛中には必ずチタニウムが含有してゐる爲に製鍊作用を妨げ操業を不可能に陥らしむる結果である、然るに我國の製鐵業者はこの點に就て餘り注意してゐなかつたので遂に失敗を見るに至つたのであるが、從來砂鐵を固めて塊とする方法だけは立派に成功したけれどもチタニウム含有に就て充分考へを及ぼさなかつた結果徒勞に歸したのであつて、そのチタニウムさへ除けば製鍊は完全に出来るものであるが今日の處ではそれが一寸不可能なのである。と言ふのは砂鐵は一種の磁鐵鑛であつて化學的にチタニウムと結びついてゐるのであるが故に是が若し機械的に混つたものであれば除く方法もあるが化學的に結合したのを機械的に除くことは却々困難である、チタニウムは鑛石中に於て色々の形となつて結合してゐるが要するに是が完全に除去せらるゝ方法が発見されると我國の製鐵業界に偉大な貢獻を爲すもので

ある、現に我國に於ける砂鐵の産額は頗る多額に達し北海道青森、岩手、新潟、九州其の他の各地に殆ど無盡藏と言つても差支ない程多くの産地を控へてゐる故に若しこの砂鐵製鍊の方法が案出されると非常に幸福になる譯で今は謂はゞ寶の持ち腐れといふ状態にあるのだ、我國の製鐵事業は御承知の通り支那に大冶鐵山を控へ歐米の製鍊方法に依つて行はれてゐる關係上餘りに甘いものばかりを喰つてゐた感があつたのである、其處では非どうしても砂鐵製鍊即ちチタニウム除去の方法を案出しなければならぬと言ふので、目下私の手元で研究中であるから何れ結果を発表する機會もあらうと思ふが、此の間もある獨逸人が訪ねて來た時の話に砂鐵製鍊はどうしても純日本式の方法に依つて解決されなければならぬと言つたやうに記憶する若しこの方法が案出されたら我國製鐵業界に甚大な影響を與へるに違ひない。

●海軍改定計畫

海軍省公表

日本海軍は華府會議に於ける海軍條約の巡洋艦以下補助艦艇の制限に關する不備に乗じ隙間を潜りて、會議の平和的精神が容認せざる施設をなさんとするの意志毛頭なし、即ち主力艦航空母艦等該會議に於て制限を設けられたる諸艦種に對し嚴に規定を恪守すべきは勿論補助艦艇の建造に於ても飽迄條約の精神に添はんことを期するものなり、曩に大正九年臨時議會に到る迄逐年の協賛を経て成立せし八八艦隊計畫に於ける補助艦艇の數は大正十六年度迄に完成すべきものとして

A 巡洋艦 天龍、龍田以後既成及注文濟のもの十七隻
未註文のもの九隻(内八、〇〇〇噸四隻)

計 二十六隻(二四六、七五〇噸)
 B 驅逐艦 江風、谷風、檜、桑以後既成及註文済の者五十七隻
 未註文のもの 一等驅逐艦 二十二隻 二等驅逐艦 十五隻

計 九十四隻(四二、五六六噸)

C 潜水艦 既成及註文済のもの四十七隻

未註文のもの 四十六隻

計 九十三隻(八二、八五二噸)

等なり此等既定計畫に屬するものは數年に亘る計畫に係り自然艦型の整一に缺くる所ありしを以て此際豫定の隻數を減ずると共に時代要求を斟酌し幾分艦型を増大し且つ其の整一を計り又一方漸次老艦を廢し將來の經費を節約せんとす而して新計畫は未だ確定の域には達せざるも之を表示すれば左の如し。

A 巡洋艦 約一〇、〇〇〇噸四隻 約七、〇〇〇噸四隻八隻(六八、四〇〇噸)

B 驅逐艦 一等驅逐艦 二十四隻(三三、六〇〇噸)

C 潜水艦 二十二隻(二八、一六六噸)

尙經費に就き一言せんに既定計畫の豫算は物價騰貴に對し僅に二割を計上せしに過ぎりしを以て新計畫に於ては物價比率の修正を加へて不足の額を補填し其豫算の範圍内に於て實施せんとするものにして即ち新計畫も畢竟は既定計畫の範圍内に於て之を遂行せんとするに止まれり、今新舊を對照せば八八艦隊計畫中の未註文のものに比し巡洋艦一隻、驅逐艦十三隻、潜水艦二十四隻、噸數に於て合計二二三九五噸を減ぜるものなり、之に依り華府會議以後に於て日本海軍が補助艦艇の膨大を策せりとの報道は全然虛妄に過ぎること明瞭なりと信ず、而も此等艦艇は今後大正十六年度迄六箇年に亘り財政上の緩急に應じ逐次に其の完成を期するものなるを以て此の

間現有老朽巡洋艦、驅逐艦、潜水艦は順次代換相殺せらるべし、尙改定計畫に伴ふ豫算に關しては後日閣議の決定を待ち逐次に公表する所あるべし、軍備制限實施及經費節減の爲め條約批准交換を了せば舞鶴軍港を廢して要港とし旅順要港部を廢し防備隊を置く豫定なり。

●桃中鐵山近狀

鈴木兼平氏談

支那桃中鐵山の經營者たる中日實業株式會社鈴木兼平氏は八幡製鐵所に長崎參事を訪問したるが同氏の語る處に依れば中日實業會社は株式組織にて資本金五百萬圓の會社であるが本社は東京と北京に設置してある桃中鐵山は鑛石の埋藏量は二千萬噸と稱せられて年額三十萬噸にして八幡製鐵所に十年度は二十萬噸兼二浦に五萬噸釜石に一萬五千噸を供給して居る目下鑛夫は五千人を役使し賃金は至つて安くして一日平均三十錢位である、歐洲戰亂の際佛國等に出稼ぎ居たる者が歸つて來て、時々勞働問題などを唱へて煽動を試みるものがある様ですが概して此等に耳を傾けるものが尠い方で殆ど勞働問題などは起るまいと信じてゐる、支那では鑛石に就ては恰も鎖國的で外國人の經營に依り國外に輸出される事は非常に嫌つて居るから、之を法律で禁じて居る様な状態であるから桃中鐵山に對しては頗る問題とされて居る。中日實業會社の創立は該法律の制定された大正三年前であつたから表面は祐繁公司の手に依つて經營されて居るのである、八幡製鐵所とは本年度の契約は未だ締結されて居ないから何程の數量を買つて貰へるかは判らない云々。

●印度銑鐵入着

本邦各地の銑鐵在荷は目下十九萬餘噸であつて客月來多少増加の傾向を示し會社筋の出銑高依然として振はざると英國並に米國銑鐵の入着多からぬ折柄にも拘はらず引續き在荷漸増を豫想されて居る此原因は(一)季節關係に依る需要減にも依るが、他方(二)英米銑鐵及び内地銑鐵の市價割高に乗じ印度タタ銑鐵が非常なる勢で輸入され著しく販路を擴め得た事が在荷増加の近因だと思はれる

從來印度タタ銑鐵の輸入は三井物産が一手に取扱つてゐたが最近鈴木商店の着目する處となり商權獲得運動を始めると同時に毎月平均五千噸乃至七千噸の輸入を計畫し既に半其の目的を達成したので産地は三井の商權擁護と鈴木の暗中飛躍物凄くタタ銑鐵の爭奪戰が演ぜられてゐる、斯くて兩社の競爭白熱し來るに連れタタ銑鐵の日本入着は一層増加し去月十七日某筋に達した情報に依ると近く鈴木扱の二萬噸三井扱の五千噸合計二萬五千噸の大量が神戸大阪に陸揚されるとの事である。

タタ銑鐵は神戸着八十留日本換算五十圓見當であるから市場賣迄の諸掛を加算して五十三四圓の安値で生産費高き内地銑は全然比較に成らず銑鐵界の標準とされてゐた英米銑も到底競爭し難く一般賣物は根柢から一變して今や印度銑鐵獨り舞臺の觀がある、タタ銑鐵が右の如く安値を以て入着するは産地積出に際し汽船會社との間に船の下積として非常なる安運賃の積取契約があるのみならず近來印度日本間の復航荷貨物皆無の狀況を呈し各船會社の積取競爭激しき爲め思はざる安運賃の恩恵に浴し此點また英米銑に比し頗る利益である。

阪神地方の銑鐵界は印度銑鐵の壓迫を受くる事甚だしきが

九州には未だ入着なく概して無關係の状態であるが假りに阪神陸揚のタタ銑鐵を九州に移送し來るとせば如何なる影響があるか右に就き消息通の談に曰く『タタ銑鐵を五十三四圓見當と見て是を九州に移送し來れば殆ど内地銑と同値になる譯であるが一般需要筋は夙に印度銑の品質優良なるを知り居る爲め内地銑を見切り印度銑を需むるは當然である、然らば九州方面に於てタタ銑の日本入着を無關係として濟ましてゐられるであらうか此の點は甚だ疑はなければ成らない』云々。

●歐洲の鐵鋼貿易戰

市内の某所に到着した報道に依ると等しく工業界の注目を惹いてゐた白耳義の賃銀引下は數ヶ月間製鐵業者及び職工間の問題となつたが漸く勞働大臣の調停に依つて五月三日双方次の條件で同意を見た模様である

一、賃銀引下率は一割で内五月一日より五分引下、六月一日より又五分引下の事。

一、傭主は爰暫く此上の賃銀引下を見合す事。

として其結果鐵鋼市場の空氣は一般的には影響はないけれども隱雲一掃の氣分が生じたと云ふ事である、右に就き某氏の語る所に依ると目下白耳義は熔鑛爐二十三基を操業してゐて鋼の月産額は三千六百噸に達してゐる、外國からは白耳義に向つて鐵鋼の注文が頻りにあるけれども同國の製鐵業者は英米との競争上引合はないと云ふので見合せてゐる模様である、英國からは少量の半製鋼の注文が引續いて發せられてゐると云ふ事だが或る亞爾然丁の鐵道會社から五十臺の機關車の注文が發せられてゐる英米佛も亦亞爾然丁の注文を受けてゐる模様である。次に英國の狀態を見ると英國は近時非常の勢で鐵鋼の貿易競争力を恢復し各國殆ど英國を對手國として

ゐるが今日では到底英國に及ばないと云ふ事である。價格は機械職工の罷工があつたにも拘らず頗る低下してゐる、米國からは鑄物銑九千噸を最近英國から買入れたが價格は十七弗八千仙乃至二十弗運賃二弗二十二仙乃至三弗七十七仙で尙續々米國から英國に注文してゐる、要するに歐洲製鐵の鐵鋼貿易競争は今後更に激烈を極むるであらうと觀測されてゐる。

●英佛獨の製鐵界

先に同盟罷業を行つた英國の機械工組合では勞働組合が強硬なために工場の閉鎖さるゝものが多いので二三強硬派を除き各種組合の投票を行つた結果五千二百票の大多數で工場主の要求を容るゝ事になつて落着し各工場の爭議は全く復舊したので市場銑鐵は近く活況を呈して來ると觀測されて居る、而して銑鐵市場の中心は近來漸次歐洲大陸に移動する傾きを生じて居る。

殊に佛國の銑鐵市場は益々活氣を呈しローレンの一工場では此程獨逸に向つて十萬噸の半鋼材を注文した模様である、ザール地方の熔鑛爐は目下三分の二操業して居て四月の鋼產額を大正十年四月に比べると二倍に達して居ると云ふ事である、佛國では銑鐵の總產額が増大したために現在では輸出價格は低廉になつて居る同國から最近鑄物銑鐵が伊太利に賣られたが其價格は噸當り熔鑛爐渡しで百八十法で邦貨に換算し約二十三圓である。

獨逸の職工は近來再び未熟練職工の賃銀を一時間三十五馬克まで引上げの要求をして居る同時に獨逸でも六月一日から運賃率を二割五分引上げた之がため鐵鋼品の價格も昂騰するに至つた目下ヘマタイト銑鐵の噸當り價格は六千七百二十四馬克邦貨約四十九圓、鑄物銑鐵六千二百二十六馬克邦貨約四十

四圓位、ベセマー銑鐵は六千三百馬克邦貨四十五圓、鋼片九千四百十五馬克邦貨六十七圓、シートバー八千九百七十馬克邦貨約六十五圓、線材八千七百二十馬克邦貨六十三圓、レール一萬一千六百馬克邦貨約八十三圓、バー一萬百馬克邦貨七十五圓、型物一萬百三十五馬克邦貨七十四圓、銅片一萬一千六百馬克邦貨八十三圓等の價格であるが英國では鋳力板の價格は三片引上げられ目下十九志六片邦貨約九圓で印度及び東洋方面より續々鋳力の注文を受けて居るさうである。

●英國より日本向鐵材輸出量 英國商務院の發表に依れば五月中日本に向け輸出したる鐵材は棒鐵百噸、鐵板五千二百噸、亞鉛引薄板八百噸、鐵葉四百噸、其他二百噸であるが本年一月以降五月迄の日本向輸出量は次の如し。(單位噸)

	鐵葉	鐵板	鐵棒
一 月	四、四〇〇	三、〇〇〇	二〇〇
二 月	二、三〇〇	二、九〇〇	八〇〇
三 月	一、八〇〇	五、九〇〇	一〇〇
四 月	一、七〇〇	五、六〇〇	二〇〇
五 月	一、一〇〇	五、二〇〇	一〇〇
合 計	一一、三〇〇	二二、六〇〇	一、四〇〇

●米國鐵鋼界の恢復

米國鐵鋼界のバロメーターとも言ふべきユー・エス・スチールの注文殘高は昨年の六月以來漸減の一途を辿り本年二月末には最近數年來の最少記録たる四百十四萬噸に落込んだがこれが底となつて三月以來増加の勢を示し三月末は四百四十九萬噸、四月末は一躍五百九萬噸と激増し昨年六月以來初めて五百萬噸臺に達するに至つたが五月末は五百二十五萬噸と更にその増加の勢ひを強めて居る一方鋼塊の生産高も亦左の如くに逐次増加して居る。(單位千噸)

一 月	一、五九三	二 月	一、七四五
三 月	二、三七〇	四 月	二、四三九
五 月	二、七一		
銑鐵の生産高 (單位千噸)			
一 月	一、六四四	二 月	一、六二九
三 月	二、〇三四	四 月	二、〇七三
五 月	二、三〇〇		

と漸増傾向にあるこれは米國に於ける鐵道建築界、農家方面からの需要が近來著しく擡頭し來つた爲で、輸出方面も近來恢復の兆著しく、特に從來歐洲品の跋扈に委せて居た南米方面に於て獨逸品が二割六分の輸出税を賦課されることになり一方米國品の生産費の低下の爲米國品が完全に羈權を握るに至つた。

然し戰時中に今日の老大を來した米國鐵鋼業は結局その生産品の捌口を單に内需のみに俟つを得ず輸出方面の旺盛に至らねば眞の甦生を期待し得ない故に今日の如くに輸出の涉々しからず前述の如く南米の需要の稍見るべきものがあるが東洋方面の未だ全く沈靜にあるの現狀では全能力の發揮は近き將來に不可能であらう而して一般に例年の如く七、八月の夏枯れ時期の到來に對しては少なからぬ不安を抱いて居る。

然し一般に鐵材の市價は既に戰前以下に在り一例を舉ぐれば棒鐵の如き戰前の平均價一弗七十二仙を割つて現在一弗六十仙を唱へて居る様であるから到底これ以下の下値はあるまい、この儘夏の試練期を経て秋にも入らば本直りの商情とならうと樂觀する向が多いと。

●米鐵需要増加と日本

在紐育熊崎總領事報告

本年三月中米國に於ける鐵及鋼輸出量は二十一萬九十五噸に達し客年四月以降十二ヶ月間中の最高數量にして前月に比し五割五分の増加なり右増加の原因は日本、支那、南米諸國及加奈陀の各方面に於ける需要の増加にあり、就中日本は米國產鐵に關し第一の顧客たり、又米國製鐵界の重鎮たる米國製鐵會社は最近事業活潑にして其の製出高は略々戰前の記錄に達せんとするの狀況なり、右原因は(一)外國の需要及(二)最近米國に於て建築事業の復活したること及各鐵道會社に於て鐵道材料の注文を爲す等内國に於ける需要著しく増加したるの事實あり。

就中日本は昨年夏期より米國產鐵類を多量に輸入し十一月以來鐵に關し米國に取り第一の顧客たるの地位に上り、毎月米國鐵類輸出總額の二割以上は日本之を占め爾來今日に及べり故に最近日本の鐵類需要狀況に關しては特に深甚なる注意を拂ふ傾向生じ米國製鐵界に於て頗る重要視せられつつあり。

今各種重要鐵類三月中輸出數量を日本及他國向に分てば左の如し。

一、重 量	一碼ニ付五十封度以下ノ軌條	
日 本	一四、〇〇一	其ノ他 一〇、九四八
二、鋼 板		
日 本	六、五六四、八九二	其ノ他 一六、八二〇、七七七
三、薄鋼板		
日 本	七五、五〇七、四二一	其ノ他 八、五一三、四〇一

四、亞鉛引鐵鋼板

日 本 八、四九八、八八六

其ノ他 一一、二三四、九二四

五、鋳力板、タンクプレート

日 本 四、二三四、六七二

其ノ他 九、三二〇、三〇七

六、亞鉛引針金

日 本 一四、五七三、八二八

其ノ他 一四、一一九、一五二

七、バーブト・ワイヤ

日本以外其ノ他ノ國

八、六八三、三八五

八、釘（ワイヤ・ネールス）

日 本 六、三四二、六七五

其ノ他 七、三二九、七二九

右に依れば日本への輸出が如何に重きを爲し居るかを知らるべく日本に亞ぐ購入者は加奈陀なり、扱て三月分増加を以て直に米國製鐵業界の永續的回復を云々するは尙早計に失すべきこと勿論なるも兎に角回復に向つて一步を進めたるものと云ふことを得べし、殊に當に外國に於ける鐵の需要大なるのみならず内國に於ける需要亦最近進境を示したり、四月中旬米國鋼鐵會社株主總會席上會長エルバート・エッチ・ゲリー氏は會社近來の活動狀況に就き陳述する所あり、右に依れば同會社最近の製出高は略々戰前の記録に等しからんとするの狀況にして又其の後發表せられたる同會社四月分未濟注文噸數を三月分と比較するに前者は五百九萬六千九百十七噸にして其の差六十萬二千七百六十九噸なり、而して未濟注文噸數が五百萬噸を突破したるは昨年六月以來初めての現象なり、尤も右増加は一部は外國よりの注文の増加に基き、一部は内國の注文増加に由るも右は單に必ずしも景氣回復にのみ歸すべきにあらずるもの如く、殊に炭坑夫同盟罷工の影響を蒙り四月初め迄は各製鐵工場は其の日暮しの注文を受くるに止まりたる處四月中急激なる變化を生じ俄かに先物の注文

を受くるに至りたること一原因なるべし。

●鐵材尙沈滯 鐵材界は至大の變化を見る迄に至らないが曩きの財界不良よりする金融難により打撃を蒙り先日來多少の引弛みを見た模様がある而して這は他に内地在荷の増加したるにも仍りたる感あり今後尙ほ如何の情勢を見るか是れを觀測するに當り大勢上より刺戟せられる外國鐵材の趨勢より見來らんに、米國鐵材界は彼地財界の良好旁々自國內の需要は大いに復興の觀あり従つて同國鐵財界の好況は勿論製産又増加すると共に相場又相當昂進した従つて是等よりする内地鐵材界又好刺戟なき能はないが内地は特別の事情あり動もすれば背馳するの感がある即ち先き頃より輸入商の活動は稍や目星しきものありて本年一月の輸入高は五萬五百七十六噸、二月七萬五千四百二十二噸、三月八萬八千三百五十八噸と逐月輸入の増加を見 是の合計二十一萬四千七百七十噸ありて是れを昨年の同期に比せんか十二萬八千三百五十九噸にて將に倍額の激増と見るべく是れが入着の増加は内地の需要尙多からず従つて一月現在々荷九萬五千噸とせられしものは四月末に至るや十五萬七百餘噸と五六萬噸の増加を見る等是れよりして大勢市況は兎角揚らず從來斯界は安値出現の折柄として是れ以上の安値は望まれずと唱へ乍ら尙ほ他景氣の面白からざると相俟つて無理ながら些少の下押しを見る状態があつた、而して今後更らに如何の情況となるか目下の處外國鐵界好況は影響薄く内地の一般景氣と在荷相當ある等に壓迫せられる傾向ありて殘存在荷十五萬餘噸もあれば、反騰氣分は當分望み難しとせらる。